

平成30年度の目玉研究等 水産総合研究所

◆持続可能なホタテガイ生産を推進するための研究

【背景】

- ・就業者数の減少、高齢化が進行しており、労働力不足が懸念されています。
- ・半成貝(1年貝)の養殖密度が増加しているため、将来的にホタテガイの餌料環境が悪化した場合、成長不良により生産量が大幅に落ち込む危険性があります。
- ・これまでに見られないような成貝(2年貝)の大量へい死が発生しています。
- ・採苗器に稚貝が大量付着し、成長不良を引き起こし、稚貝確保に支障が生じています。

【目的】

- ・10年後のホタテガイ生産量と生産構造を予測するとともに、漁場環境や生産構造の変化に対応した持続可能なホタテガイ生産技術を開発します。

【H30目標】

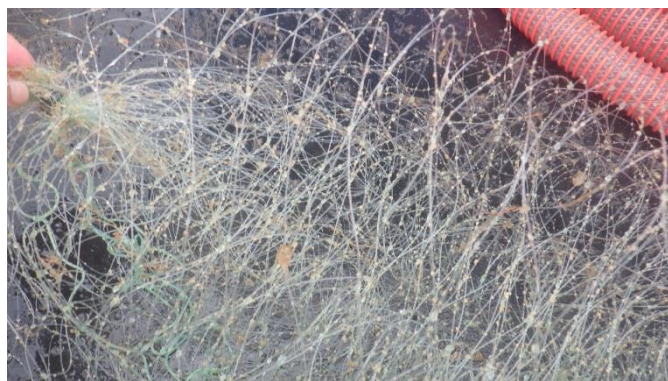
- ・ホタテガイの餌料環境の変化を明らかにするとともに、現在の適正養殖量の検証を行います。
- ・半成貝(1年貝)の最も効率的な出荷時期と養殖籠1段当りの収容枚数を明らかにします。
- ・成貝(2年貝)のへい死原因を明らかにするとともに、へい死軽減技術を開発します。
- ・採苗器への稚貝の大量付着防止技術を開発します。

【今後】

- ・漁業者へ半成貝の適切な出荷時期や養殖密度を指導するほか、開発した技術を普及します。



ホタテガイの餌料環境調査



稚貝の大量付着防止技術の開発

お問い合わせ

水産総合研究所 ほたて貝部(電話017-755-2155)

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center

地方独立行政法人 青森県産業技術センター

